

(6) 東 海



東海地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す
(は上方に変更、 は下方に変更)

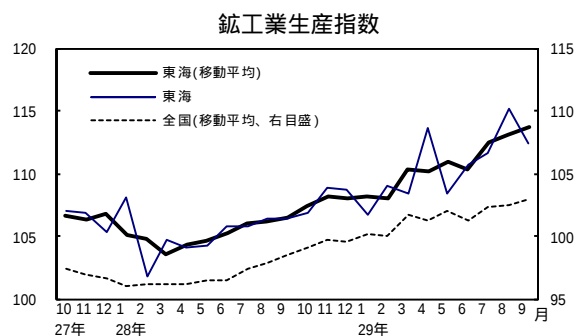
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 29 年 8 月)	今回 (平成 29 年 11 月)	
景況判断	緩やかな回復基調	緩やかに回復	↑
鉱工業生産	持ち直し	緩やかに増加	↑
住宅建設	増加	減少	↓

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

7 - 9 月期には、「輸送機械」は、海外向け自動車部品等が好調であることから増加した。「電子デバイス、電気・情報通信」は、スマートフォン用集積回路等が増加したことから増加した。「石油・石炭製品、化学、プラスチック製品」は、増加した。「汎・生産・業務用機械」は、金属工作機械が好調であることから増加した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	35.2	3.9	0.1	▲1.8	4.4	▲3.3
電子デバイス、電気・情報通信	19.7	2.2	7.6	8.0	3.5	▲5.1
石油・石炭製品、化学、プラスチック製品	14.9	0.2	1.3	0.6	0.9	0.0
汎・生産・業務用機械	8.9	7.0	1.9	▲1.5	3.1	1.7
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.0	0.8	▲2.3	▲1.1	0.9	▲2.4
鉱工業	100.0	2.7	1.9	0.7	3.2	▲2.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

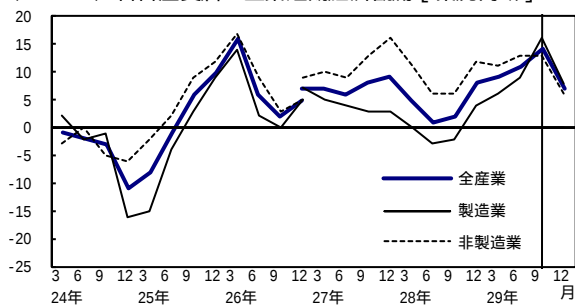
2. 7 - 9 月期、9 月は速報値。

- (備考) 1. 22 年 = 100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び東海の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。
3. 東海は内閣府にて算出。

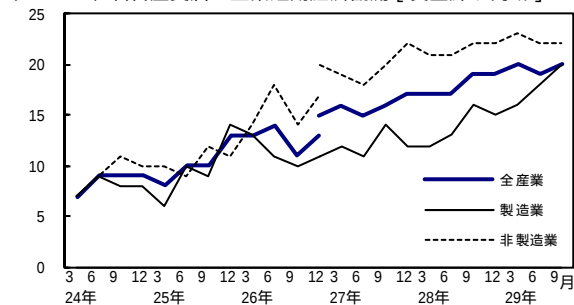
- (2) 名古屋支店の企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。
 静岡支店の企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

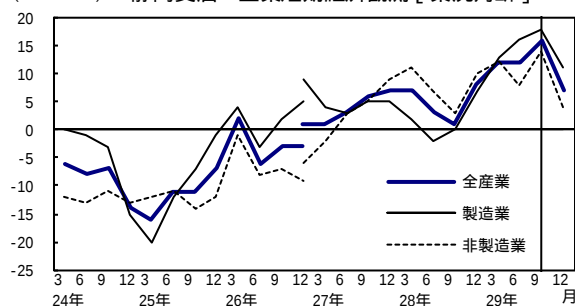
(%ポイント) 名古屋支店 企業短期経済観測 [業況判断]



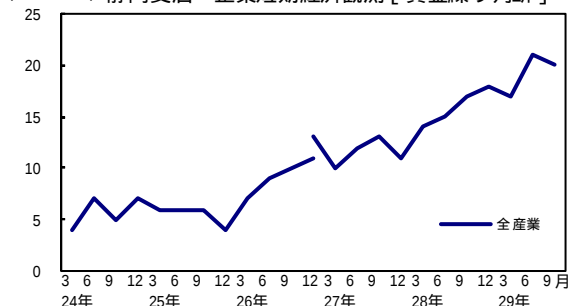
(%ポイント) 名古屋支店 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(%ポイント) 静岡支店 企業短期経済観測 [業況判断]



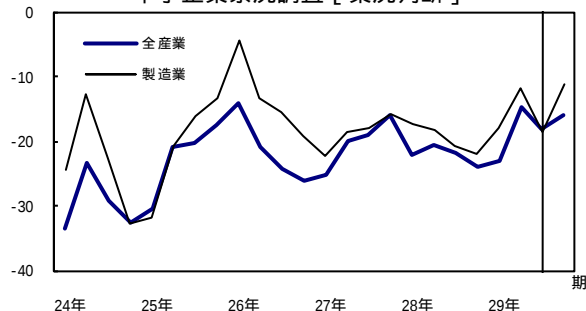
(%ポイント) 静岡支店 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年12月は予測。
 26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
 26年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

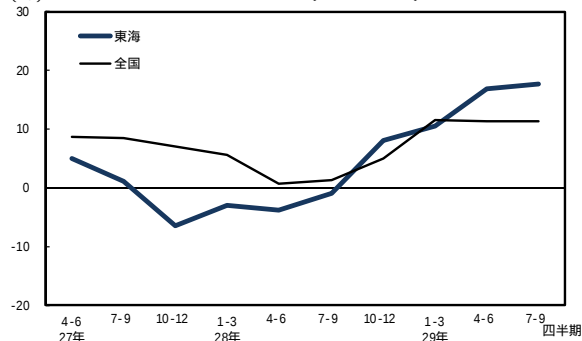
景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [企業動向関連 (現状)]

「秋冬商材の出荷が堅調に推移している。台風の影響で若干失速気味ではあるが、これからの
 ばん回は十分に可能である (食料品製造業)」などの回答がみられた。

(6) 東海

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて大幅に増加している。

民間非居住用建設工事費（前年同期比）の推移



（備考）29年4 - 6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査〔設備投資（9月調査）〕

	（前年度比、%）	
	28年度実績	29年度計画
全産業		
名古屋支店	6.7	10.2
静岡支店	▲0.5	14.3 (2.3)
製造業		
名古屋支店	2.6	14.0
静岡支店	0.1	24.6 (2.4)
非製造業		
名古屋支店	11.7	5.9
静岡支店	▲1.2	1.9 (2.1)

（備考）1. 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。

2. ()は前回（6月）調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

7月は前月比0.2%増、8月は同1.3%減、9月は同1.1%増となった。

百貨店・スーパー販売額

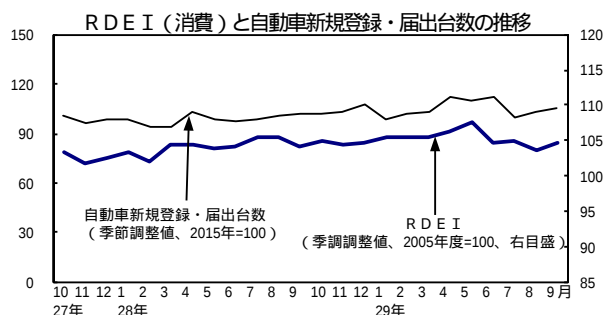
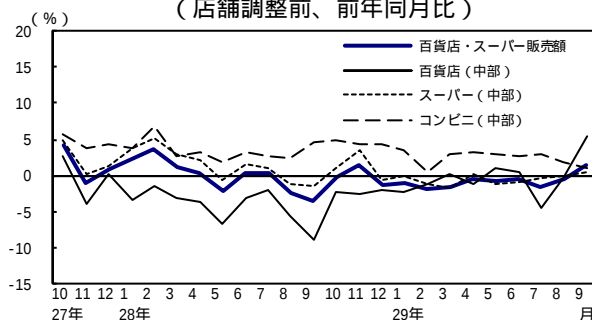
百貨店は、7月は、売り場面積の減少やセールの前倒しの影響に加え、衣料品が振るわなかったことから、前年を下回った。8月は、売り場面積の減少に加え、衣料品が振るわなかったことから、前年を下回った。9月は、催事による効果に加え、高額品や衣料品に動きがみられたことから、前年を上回った。

スーパーは、7 - 9月期は、飲食料品に動きがみられたものの、衣料品が振るわなかったことから、前年に対し横ばいとなった。

景気ウォッチャー調査（10月調査結果）〔家計動向関連（現状）〕

「徒歩圏内に競合店が開店したが、品ぞろえや価格等の点では良い店である。天候不順や台風等も重なり、当店の来客数は少ないが、競合店は盛況である（スーパー）」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

百貨店・スーパー販売額等
（店舗調整前、前年同月比）



	29年7-9月	29年7月	8月	9月
RDEI（消費*1）	▲1.6	0.2	▲1.3	1.1
百貨店・スーパー(*2)	▲0.3	▲1.5	▲0.5	1.3
百貨店(*3)	▲0.3	▲4.4	▲0.4	5.4
スーパー(*3)	0.0	▲0.3	0.0	0.4
コンビニ(*3)	2.0	2.9	1.9	1.1
乗用車(*4)	1.1	0.3	2.1	1.2
（季節調整値）(*4)	▲8.1	▲11.4	3.6	1.6

（備考）1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

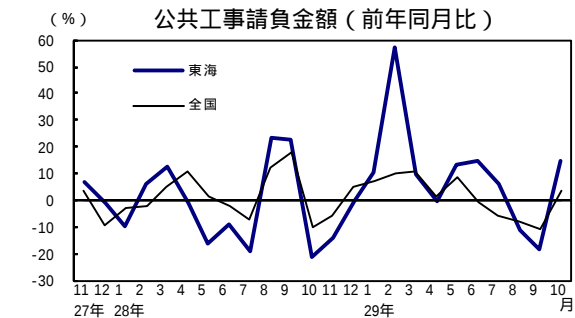
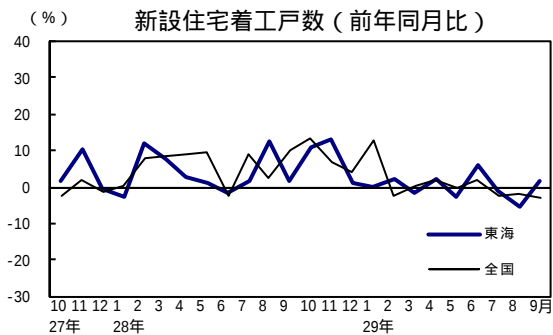
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の中部（富山、石川、岐阜、愛知、三重）の値。

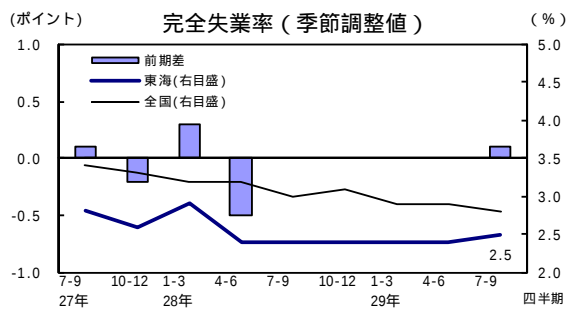
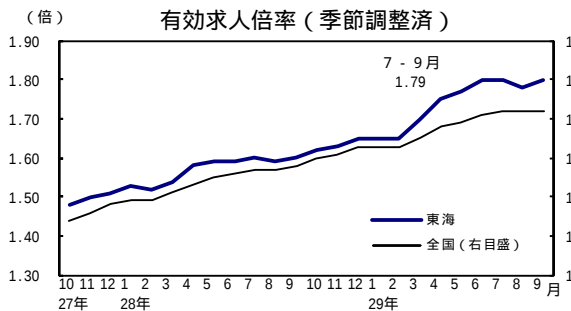
4. 乗用車は、新規登録・届出台数（上段は前年同期(月)比(%)）

- (2) 住宅建設は前年に比べて減少している。
貸家が前年を上回ったものの、持家が下回ったことから、全体では減少している。
- (3) 公共投資は29 年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。

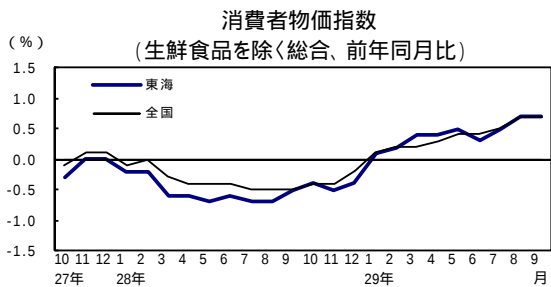


景気ウォッチャー調査 (10 月調査結果) [雇用関連 (現状)]
「求職者と求人者のミスマッチが多く、実際の就職実績に結び付かない (職業安定所) 」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は前年に比べて件数はおおむね横ばい、負債総額は増加している。
- (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、 %)				
	28年10-12月	29年1-3月	4-6月	7-9月	29年10月
倒産件数	262	238	264	253	87
(前年比)	21.9	▲2.5	▲2.6	0.4	8.7
負債総額	431	428	419	419	88
(前年比)	35.4	10.9	▲21.6	28.5	▲34.9



(6) 東海

○ 景気ウォッチャー調査（10月調査結果）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・原材料の値上がり分の製品価格への転嫁も徐々に進み、販売量も多少増加しており、景気はやや良くなっている（パルプ・紙・紙加工品製造業）

<先行き>

- ・ドラッグストアの相次ぐ出店に加えてコンビニも近くに出店し、ますます競合が激しくなる（コンビニ）

